

令和3年度沖縄国際物流拠点等活用推進事業の成果概要

| | |
|---------|--|
| 事業実施主体 | 株式会社 琉球通運航空 |
| プロジェクト名 | 「航空貨物のデジタル化による新たなサプライチェーンの創出」 |
| 事業内容 | 航空輸送のデジタル化・IoT 化により、物流情報（産地～市場・販路～消費者）をIoT で繋ぎ新たなサプライチェーンを創出する。また物流拠点のマテハン連携により輸送能力を向上させ、県外・海外への出荷量増大と最適な物流コントロールを実現させる。 |
| 今後の計画 | 2022年度：海外 アジア向け 3t 2023年度：海外 アジア向け 5t 2024年度：海外 アジア向け 10t |
| 最終目標と現状 | 最終目標）令和7年度までに、アジア（中国・シンガポール・台湾・インドネシア各国）への輸出量50 t（売上金額1,500万円） 現 状）国際線が運休状態。米軍より航空機部品をアメリカ北米へ輸送（弊社は東京まで輸送し、UPS Japan様手配で輸送）7,700 k g 県産品輸出支援：空港ハンドリング 鮮魚 2 4 5 1 k g |
| 補助事業の効果 | ○航空貨物輸送のデジタル化推進 タブレットやハンディーターミナル・クラウド型輸送システムの導入により、今までのアナログな物流業務や情報のデジタル化が進み、航空輸送業務の効率化につながった。 また、産地からの情報エントリーや生産者との対話を進めながら、新システムを活用して、お客様側への輸送サービス向上や新しい移出体制への確立にもつなげるべく取り組みを進めている。 海外向けについては、シンガポール向けの鮮魚輸送のハンドリング業務を開始した事により、県産品輸出の支援につながった。 |



空港でのマテハン
による自動仕分け



ハンディーターミナル
の導入による物流
情報のデジタル化



QRコードを活用した
伝票ラベルの導入